

私の一冊

社会福祉学科 山本学 先生

吉田修一著 『横道世之介』

小鹿図書館 : 913.6/Y86 (毎日新聞社)

どうして惹かれるのかわからないけど、自然と印象に残る人がみなさんの周りにもいませんか？横道世之介は、長崎の田舎から東京の大学(内容からして法政大学)に上京してきました。彼の当時の一年間の生活を描きながら、それに関わった人のその後のエピソードが挿入されています。

実はこれ、話の結末は物語の中盤で明らかになってしまいます。しかし、結末がわかっても、最後まで同じ引力で読ませるこの微妙なさじ加減がすごいです。吉田さんすごい！むしろ、結末を知るからこそ、世之介や登場人物の何気ない生活がとても輝いてみえます。

とても読みやすいです。保存版の小説です。私は電車の中でよく本を読むのですが、これを読んだときは他の乗客もいるのに涙がでてしまって、困りました。

ちなみに私は大学生のとき、通学に片道 2 時間 30 分かけて千葉県から東京都へ通っていましたが、大学の課題はほとんど電車の中でしていましたが、本もよく読みました。映画も好きなのですが、登場人物の心情描写は活字の方が優れていると思います。ぜひ、短いものからでもいいので、読書もしてみてくださいね。